

2. 指標設定

成果指標	指標名	基幹系電算経費削減	目標年度	H28	指標の設定理由				
	数値	H22経費比30%減			行政情報化で中心的役割を果たす基幹系電算システムの経費を削減するという目標を設定することで、情報化に関する経費全体を減らしていくという意識を持たせる				
活動指標	指標	a	クラウド化の推進	b	プリンターの削減	c	出先機関等のネットワークの高速化	d	
	数値	目標	システム化された60業務の90%をクラウド化	目標	半減	目標	-	目標	

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H20	H21	H22
基幹系電算経費削減	千円	61,522	55,683	52,908
	%	116.3	105.2	100.0

活動指標名	単位	H20	H21	H22	
a	クラウド化の推進	業務	-	-	60
b	プリンターの削減	機	-	-	281
c	出先機関等のネットワークの高		-	-	-
d					

4. 課題と対応

課題
サーバー室の維持管理費 過大なプリンター数
対応（改善点等）
クラウドコンピューティング化 各課に適切なプリンタを配置する

5. 事業費・・・H20～H22（決算額）、H23（予算現額）

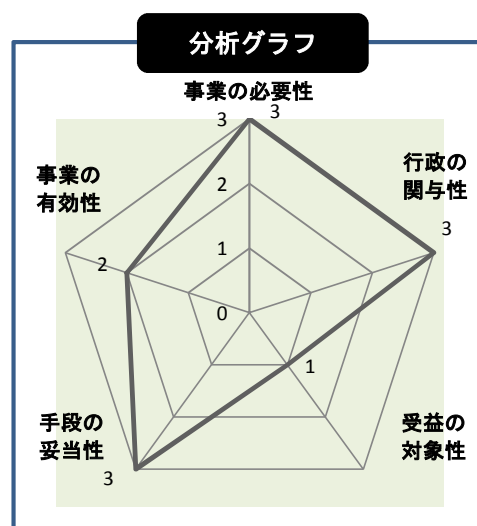
決算額（千円）		H20	H21	H22	H23
		93,904	124,095	75,598	413,101
うち経常経費		93,904	124,095	75,598	79,897
財源内訳	国費				
	県費				
	市債				
	その他				
	一般財源	93,904	124,095	75,598	413,101
うち経常		93,904	124,095	75,598	79,897
事業費に係る人件費		19,103	13,226	11,387	11,610

6. H24年度予算の方向性

方向性
減額
理由
クラウド化によるコストの削減 やプリンターの削減等々を実施し、経費の削減に取り組む

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 行政事務を遂行するには必須であり、今後益々その重要性は増してくる
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 行政主体で行うもの。しかし、将来的に事務の民間移行等が発生すれば電算のあり方について見直し必要
③ 受益の対象性	事業対象の確認	1 職員対象である
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 クラウド化によるコスト削減の取組やネットワーク網の高速化は重要な施策である。成果指標にも直結する
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	2 クラウドによる基幹系システム構築はH23年度以降ゆえ、効果が発揮するのは次年度以降である



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	情報電算システムの見直しにより、経費節減の効果を上げること